

### 記念すべき3万2千人目は：

8月29日、大津町の人口が3万2千人を突破しました。記念すべき、3万2千人目の大津町民は山内虹心ちゃん。8月生まれの女の子です。

同日行われたセレモニーでは、山内さん一家と家人町長と一緒にくす玉を割り、町民3万2千人目を祝いました。町から山内さんに記念品をプレゼントし、家人町長から3万2千人目の認定証が渡されました。虹心ちゃんのお父さん、暢さんは「娘が3万2千人目になるなんて、びっくりしました。とてもうれしいです」と虹心ちゃんの誕生と3万2千人目になった喜びを語りました。

### 町は今でも前に進んでいます

大津町の人口が、3万1千人を突破したのが、平成21年12月3日。約1年8カ月で1千人増加したことになります。

平成22年国勢調査で、熊本県の総人口は181万7千410人でした。前回に比べ、約2万5千人の減少です。県の人口は、平成12年から減少に転じていますが、町

はまだ人口が増加しています。

昭和31年、1町5村で合併した新大津町の人口は、2万3千人でした。しかし高度成長期の人口流出などで昭和50年には1万8千人まで減少してしまっています。

昭和51年、大津町で本田技研工業(株)熊本製作所が操業を開始すると、町の人口は増加に転じます。人口の増加は、今でも変わらず、今回の3万2千人のお祝いにつながりました。

### 第三の夜明けはー

本田技研工業(株)の進出は、大津町の「第一の夜明け」といわれています。「第二の夜明け」は、熊本中核工業団地の造成。これまでに先人たちが努力を惜しまずに築いてきたものが、今の大津町を作っているのです。

人口減少社会といわれている現在に人口が増えるということは、それだけ大津町に住むメリットや魅力があるということです。社会増(転入などで人口が増加)と自然増(出生などで人口が増加)のバランスが良い大津町。これからますます元気な町になっていくかどうかは、私たち次第です。

### 子どもが増えて、喜びは倍に

山内さん一家は、暢さん、妻の恵里奈さん、長男の太生登くん、次男の慈生斗くん、長女の虹心ちゃんの5人家族。11年前に恵里奈さんの実家がある大津町に移り住み、家族で子育てをしています。

「生きているのは、子どもたちのためですよ」と笑う暢さん。虹心ちゃんが生まれてから、さらに子どもが好きになったそうです。仕事は忙しいですが、男として、父親として、家族に愛情を注いでいきたいと山内家の子育て感を話してくれました。



## 序章 Prologue

# 3万2千回目の奇跡がこの町で起きた。

# 日常

## 第一章 子育ての



生まれたばかりで、しわくちゃんの赤ちゃんの顔を見つめながら「この子のためなら何でもしよう」と思ったほど愛情にあふれていた。初めて歩けるようになった日、初めて「パパ、ママ」ってしゃべってくれた日。あの感動を忘れることはないでしょう。

しかし、感動や感情だけで子どもは育ちません。大人になるきっかけを子どもに与えていくのは、簡単なことではないし、実は、とても大変なことなのだといえます。

「簡単なことのはずなのに、何でできないんだろう」「なぜこんなに言っても伝わらないんだろう」。子どもが生まれる前には、考えもしなかった問題に親は頭を悩ませ、出口の無い迷路に入り込んでしまっています。子どものためにと思っているのに、子どものことで悩んでしまうのです。

でも、それでも、子どもが笑っている顔を見ればそんな悩みや辛さも吹き飛んでしまいます。

子育ては、悩みを生むのも、悩みを解決してくれるのも子どもです。しかし、子育ては、考え方で違って楽しくなるものです。さあ、一緒に「子育ての日常」を調べてみましょう。